

II 全国学力・学習状況調査からみた長野県の成果と課題

1 教科に関する調査の結果と分析

(1) 令和3年度 教科に関する調査の結果と分析

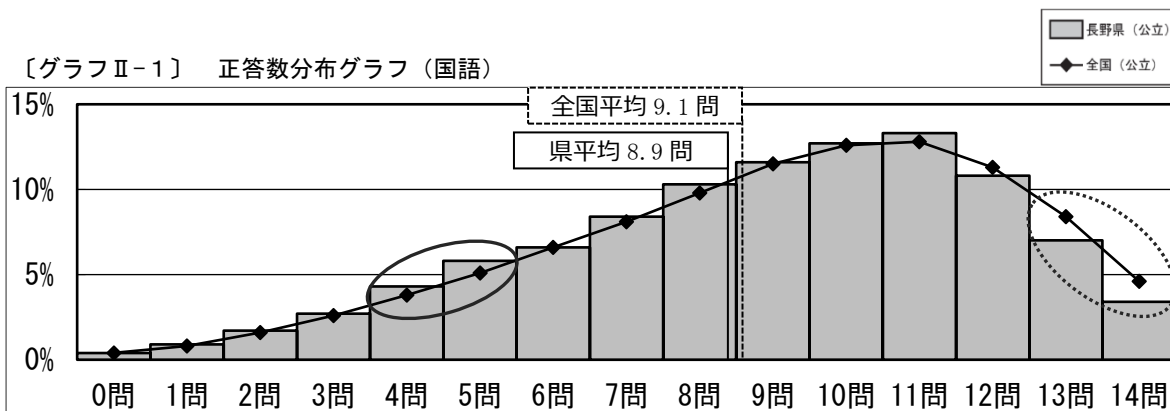
ア 小学校における平均正答率及び平均正答数，正答数分布と分析

(ア) 平均正答率及び平均正答数，正答数分布

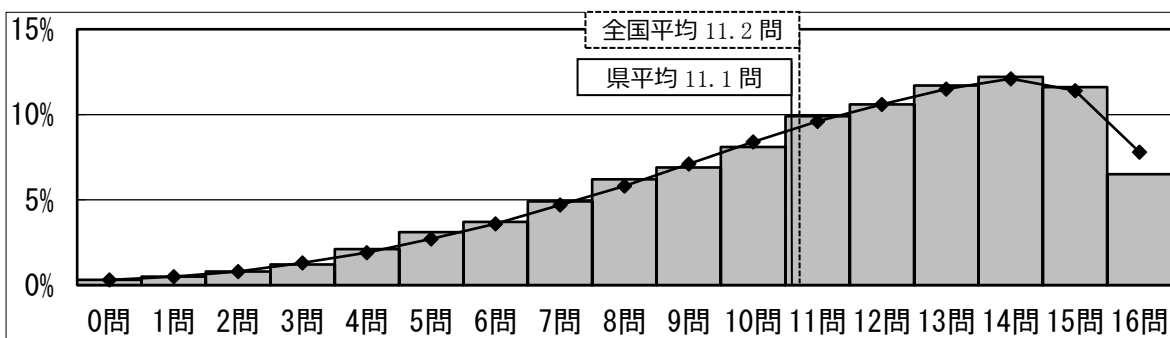
【表Ⅱ-1】 教科に関する調査の平均正答率及び平均正答数（小学校）

| 科目 | 区分 | 平均正答率 | 平均正答数／全問数 |
|----|---------|-------|-----------|
| 国語 | 長野県（公立） | 63% | 8.9／14問 |
| | 全国（公立） | 64.7% | 9.1／14問 |
| 算数 | 長野県（公立） | 70% | 11.1／16問 |
| | 全国（公立） | 70.2% | 11.2／16問 |

【グラフⅡ-1】 正答数分布グラフ（国語）



【グラフⅡ-2】 正答数分布グラフ（算数）



※グラフⅡ-1，2の横軸は正答数，縦軸は割合を示す。

(イ) 分析

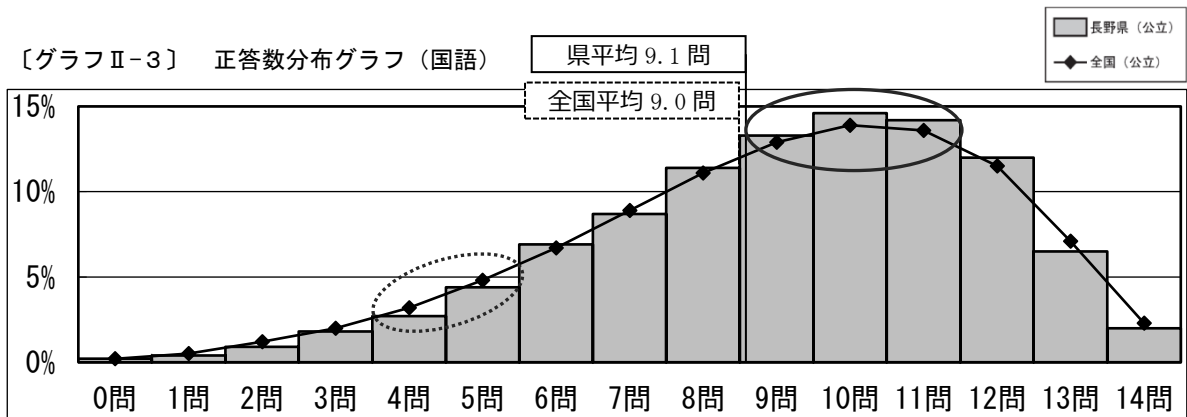
- ・算数の平均正答数は，全国と同程度である。（表Ⅱ-1）
- ・国語の平均正答数は，全国の平均正答数を0.2ポイント下回った。（表Ⅱ-1）
- ・国語と算数の正答数の分布は，全国とほぼ同様の傾向である。（グラフⅡ-1，2）
- ・国語では，正答数が4から5問の割合が全国平均よりもやや高く，13問以上の児童の割合が全国平均よりも低い状況である。（グラフⅡ-1）

イ 中学校における平均正答率及び平均正答数，正答数分布と分析

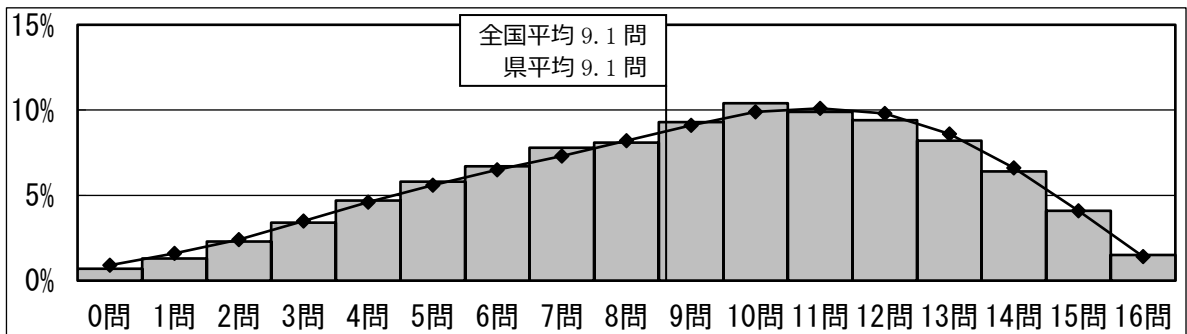
(ア) 平均正答率及び平均正答数，正答数分布

〔表Ⅱ-2〕 教科に関する調査の平均正答率及び平均正答数（中学校）

| 科目 | 区分 | 平均正答率 | 平均正答数／全問数 |
|----|---------|-------|-----------|
| 国語 | 長野県（公立） | 65% | 9.1／14問 |
| | 全国（公立） | 64.6% | 9.0／14問 |
| 数学 | 長野県（公立） | 57% | 9.1／16問 |
| | 全国（公立） | 57.2% | 9.1／16問 |



〔グラフⅡ-4〕 正答数分布グラフ（数学）



※グラフⅡ-3，4の横軸は正答数，縦軸は割合を示す。

(イ) 分析

- ・国語及び数学の平均正答数は，全国と同程度である。（表Ⅱ-2）
- ・国語と数学の正答数の分布は，全国とほぼ同様の傾向である。（グラフⅡ-3，4）
- ・国語では，正答数が4から5問の割合が全国平均よりもやや低く，9問～11問の生徒の割合が全国平均よりも高い状況である。（グラフⅡ-3）

(2) これまで（平成19年度～令和3年度）の調査結果の経年変化と分析

ア 小学校における経年変化（平均正答率）と分析

(ア) 平均正答率

〔表Ⅱ-3〕 教科に関する調査の平均正答率の経年変化（小学校）

| 教科 | 県・全国 | H19 (悉皆) | H20 (悉皆) | H21 (悉皆) | H22* (抽出) | H24* (抽出) | H25 (悉皆) | H26 (悉皆) | H27 (悉皆) | H28 (悉皆) | H29 (悉皆) | H30 (悉皆) | 教科 | H31 (R元) (悉皆) | R3 (悉皆) |
|------|--------|-------------|-------------|-------------|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|---------------------|------------|
| 国語 A | 県(公立) | 82 | 67 | 70 | 83~ 85 | 82~ 83 | 64 | 73 | 70 | 74 | 75 | 72 | 国語 | 64 | 63 |
| | 全国(公立) | 82 | 65 | 70 | 83~ 84 | 81~ 82 | 63 | 73 | 70 | 73 | 75 | 71 | | 64 | 65 |
| | 全国との差 | 0 | +2 | 0 | | | +1 | 0 | 0 | +1 | 0 | +1 | | 0 | -2 |
| 国語 B | 県(公立) | 63 | 51 | 51 | 78~ 80 | 55~ 57 | 50 | 57 | 66 | 59 | 57 | 55 | | | |
| | 全国(公立) | 62 | 51 | 51 | 78 | 55~ 56 | 49 | 56 | 65 | 58 | 58 | 55 | | | |
| | 全国との差 | +1 | 0 | 0 | | | +1 | +1 | +1 | +1 | -1 | 0 | | | |
| 算数 A | 県(公立) | 84 | 72 | 80 | 73~ 75 | 72~ 74 | 78 | 79 | 75 | 77 | 78 | 62 | 算数 | 66 | 70 |
| | 全国(公立) | 82 | 72 | 79 | 74 | 73~ 74 | 77 | 78 | 75 | 78 | 79 | 64 | | 67 | 70 |
| | 全国との差 | +2 | 0 | +1 | | | +1 | +1 | 0 | -1 | -1 | -2 | | -1 | 0 |
| 算数 B | 県(公立) | 64 | 51 | 54 | 48~ 49 | 58~ 60 | 60 | 59 | 45 | 47 | 46 | 50 | | | |
| | 全国(公立) | 64 | 52 | 55 | 49~ 50 | 59 | 58 | 58 | 45 | 47 | 46 | 52 | | | |
| | 全国との差 | 0 | -1 | -1 | | | +2 | +1 | 0 | 0 | 0 | -2 | | | |
| 理科 | 県(公立) | | | | | 60~ 62 | | | 61 | | | 61 | | | |
| | 全国(公立) | | | | | 61 | | | 61 | | | 60 | | | |
| | 全国との差 | | | | | | | | 0 | | | +1 | | | |

※H22年度、H24年度調査は抽出で実施されたため、全員を対象とした調査(悉皆調査)の平均正答率が95%の確率で含まれる範囲を「〇～〇」と示している。

※全国との差を示すために、全国(公立)の値は四捨五入し整数値で示してある。

(イ) 分析 ◇: 成果 ◆: 課題

◆国語は、平成31年度(令和元年度)における全国の平均正答率との差が0であったが、今年度は-2である。(表Ⅱ-3)

◇算数は、平成30年度における全国の平均正答率との差は、A、Bともに-2、平成31年度(令和元年度)は-1、今年度は0と差が少なくなっている。(表Ⅱ-3)

イ 中学校における経年変化（平均正答率）と分析

(ア) 平均正答率

〔表Ⅱ-4〕 教科に関する調査の平均正答率の経年変化（中学校）

| 教科 | 県・全国 | H19 (悉皆) | H20 (悉皆) | H21 (悉皆) | H22* (抽出) | H24* (抽出) | H25 (悉皆) | H26 (悉皆) | H27 (悉皆) | H28 (悉皆) | H29 (悉皆) | H30 (悉皆) | 教科 | H31 (R元) (悉皆) | R3 (悉皆) |
|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------|---------------------|------------|
| 国 語 A | 県 (公立) | 84 | 74 | 78 | 74~ 75 | 76~ 77 | 77 | 80 | 76 | 76 | 78 | 76 | 国 語 | 73 | 65 |
| | 全国 (公立) | 82 | 74 | 77 | 75 | 75 | 76 | 79 | 76 | 76 | 77 | 76 | | 73 | 65 |
| | 全国との差 | +2 | 0 | +1 | | | +1 | +1 | 0 | 0 | +1 | 0 | | 0 | 0 |
| 国 語 B | 県 (公立) | 73 | 61 | 75 | 63~ 65 | 63~ 65 | 66 | 49 | 65 | 66 | 72 | 61 | | | |
| | 全国 (公立) | 72 | 61 | 75 | 65~ 66 | 63 | 67 | 51 | 66 | 67 | 72 | 61 | | | |
| | 全国との差 | +1 | 0 | 0 | | | -1 | -2 | -1 | -1 | 0 | 0 | | | |
| 数 学 A | 県 (公立) | 73 | 63 | 63 | 61~ 64 | 61~ 64 | 62 | 67 | 64 | 61 | 64 | 65 | 数 学 | 60 | 57 |
| | 全国 (公立) | 72 | 63 | 63 | 64~ 65 | 62 | 64 | 67 | 64 | 62 | 65 | 66 | | 60 | 57 |
| | 全国との差 | +1 | 0 | 0 | | | -2 | 0 | 0 | -1 | -1 | -1 | | 0 | 0 |
| 数 学 B | 県 (公立) | 62 | 50 | 57 | 40~ 43 | 47~ 50 | 40 | 58 | 41 | 44 | 48 | 46 | | | |
| | 全国 (公立) | 61 | 49 | 57 | 43~ 44 | 49~ 50 | 42 | 60 | 42 | 44 | 48 | 47 | | | |
| | 全国との差 | +1 | +1 | 0 | | | -2 | -2 | -1 | 0 | 0 | -1 | | | |
| 理 科 | 県 (公立) | | | | | 50~ 52 | | | 53 | | | 66 | 英 語 | 54 | |
| | 全国 (公立) | | | | | 51 | | | 53 | | | 66 | | 56 | |
| | 全国との差 | | | | | | | | 0 | | | 0 | | -2 | |

※H22年度、H24年度調査は抽出で実施されたため、全員を対象とした調査(悉皆調査)の平均正答率が95%の確率で含まれる範囲を「〇～〇」と示している。

※全国との差を示すために、全国(公立)の値は四捨五入し整数値で示してある。

(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇国語は、全国の平均正答率との差について、平成31年度(令和元年度)に引き続き、今年度も0で推移している。(表Ⅱ-4)

◇数学は、全国の平均正答率との差について、平成31年度(令和元年度)に引き続き、今年度も0で推移している。(表Ⅱ-4)

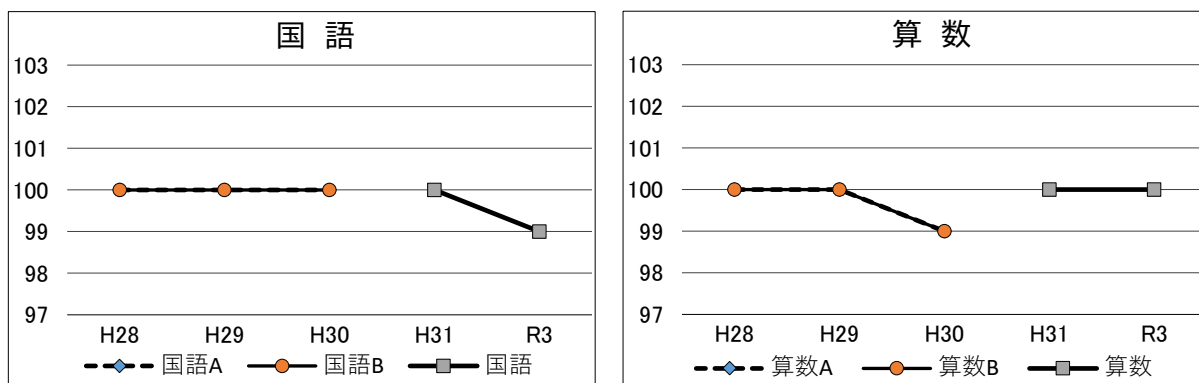
(3) 過去5回（平成28年度～令和3年度^{※1}）の調査結果の経年変化と分析 ※1 令和2年度は未実施

① 小学校の経年変化（標準化得点^{※2}）と分析

※2 標準化得点…各年度の調査は問題が異なることから、平均正答率による単純な比較ができないため、年度間の相対的な比較をすることが可能となるよう、各年度の調査の全国（公立）の平均正答数がそれぞれ100となるように標準化した得点。

(ア) 標準化得点

〔グラフⅡ-5〕 標準化得点の推移



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

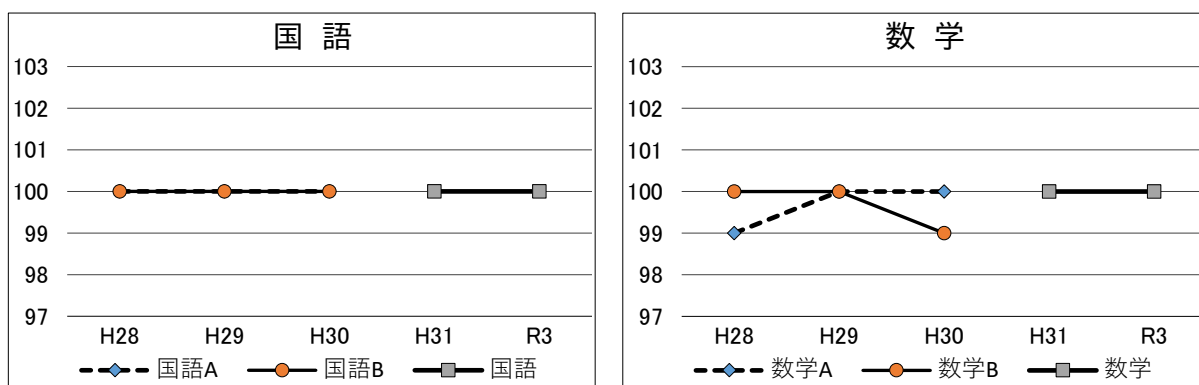
◆国語の標準化得点は、平成28年度以降、100で推移していたが、令和3年度は99と下がった。(グラフⅡ-5)

◇算数の標準化得点は、平成30年度は、A問題、B問題ともに99であったが、平成31年度、令和3年度は100で推移している。(グラフⅡ-5)

② 中学校の経年変化（標準化得点^{※2}）と分析

(ア) 標準化得点

〔グラフⅡ-6〕 標準化得点の推移



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇国語の標準化得点は、平成28年度以降、100で推移している。(グラフⅡ-6)

◇数学の標準化得点は、平成28年度以降、A問題またはB問題が99と100を推移していたが、平成31年度、令和3年度は100で推移している。(グラフⅡ-6)

(4) 過去5回（平成28年度～令和3年度^{※1}）の調査結果の経年変化と分析 ※1 令和2年度は未実施

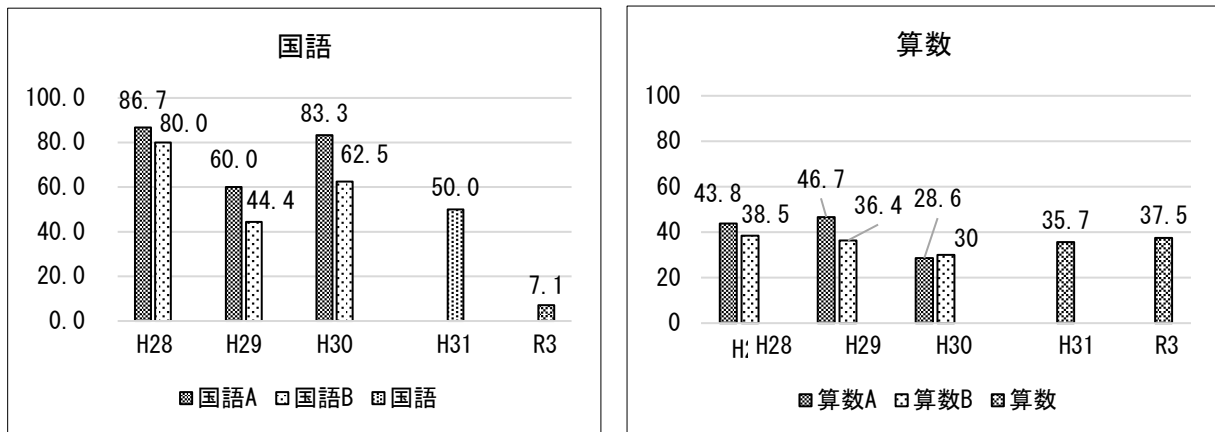
① 小学校の経年変化（全国の平均正答率を上回った設問と無答率）と分析

i) 全国の平均正答率を上回った設問数と無答率

〔表Ⅱ-5〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問数

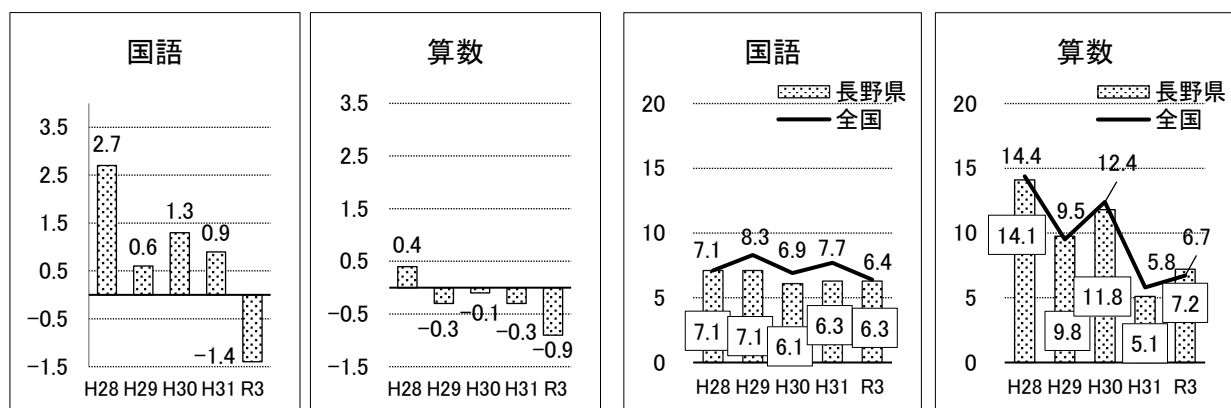
| | 国語A | 国語B | 算数A | 算数B |
|--------|-------|------|------|------|
| 平成28年度 | 13/15 | 8/10 | 7/16 | 5/13 |
| 平成29年度 | 9/15 | 4/9 | 7/15 | 4/11 |
| 平成30年度 | 10/12 | 5/8 | 4/14 | 3/10 |
| | 国語 | | 算数 | |
| 平成31年度 | 7/14 | | 5/14 | |
| 令和3年度 | 1/14 | | 6/16 | |

〔グラフⅡ-7〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問の割合（％）



〔グラフⅡ-8〕 記述問題の全国平均正答率との差（％）

〔グラフⅡ-9〕 記述問題における平均無答率（％）



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆国語、算数とも令和3年度における記述問題の平均正答率は、全国を下回り、算数の記述問題における平均正答率は、平成29年度以降、全国より低い状態が続いている。

(グラフⅡ-8)

◆算数の記述問題における平均無答率は、令和3年度は全国平均を上回っている。

(グラフⅡ-9)

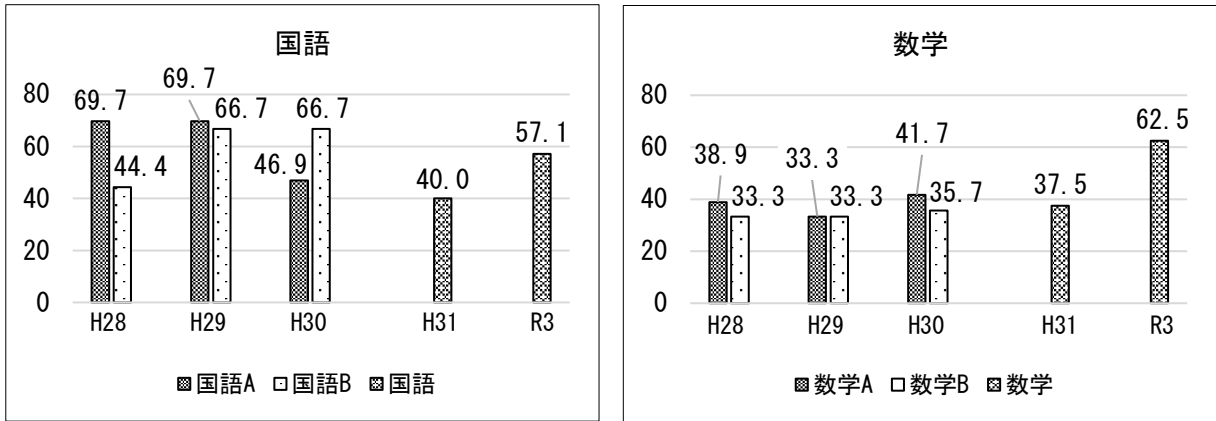
② 中学校の経年変化（全国の平均正答率を上回った設問と無答率）と分析

i) 全国の平均正答率を上回った設問と無答率

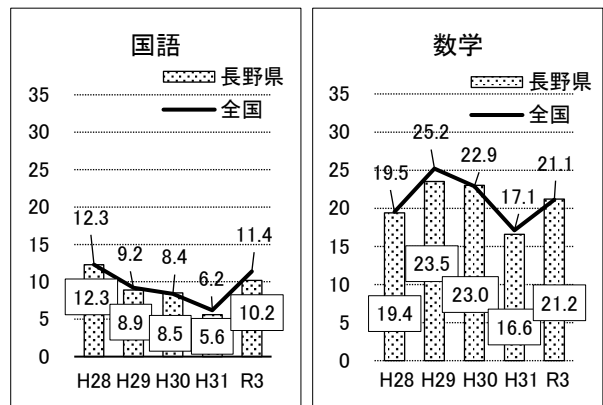
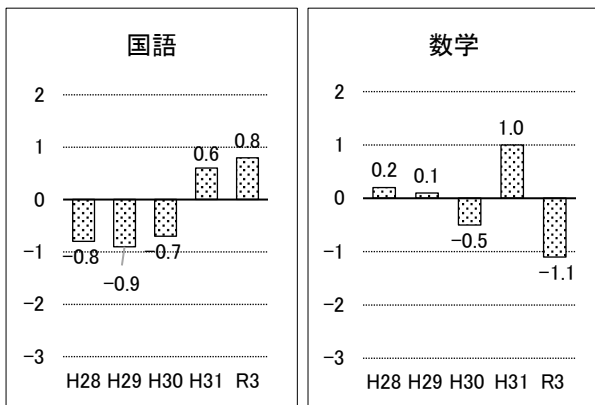
〔表Ⅱ-6〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問数

| | 国語A | 国語B | 数学A | 数学B |
|----------|---------|-------|---------|--------|
| 平成 28 年度 | 23 / 33 | 4 / 9 | 14 / 36 | 5 / 15 |
| 平成 29 年度 | 23 / 32 | 6 / 9 | 12 / 36 | 5 / 15 |
| 平成 30 年度 | 15 / 32 | 6 / 9 | 15 / 36 | 5 / 14 |
| | 国語 | | 数学 | |
| 平成 31 年度 | 4 / 10 | | 6 / 16 | |
| 令和 3 年度 | 8 / 14 | | 10 / 16 | |

〔グラフⅡ-10〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問の割合（％）



〔グラフⅡ-11〕 記述問題の全国平均正答率との差（％）



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇平成 31 年度，令和 3 年度の国語の記述問題の平均正答率は，全国を上回っている。
 (グラフⅡ-11)

◇令和 3 年度の国語の記述問題における平均無答率は，全国を下回っている。(グラフⅡ-12)

◇国語，数学とも，全国の平均正答率を上回った設問の割合が一昨年度より上昇している。
 (グラフⅡ-10)

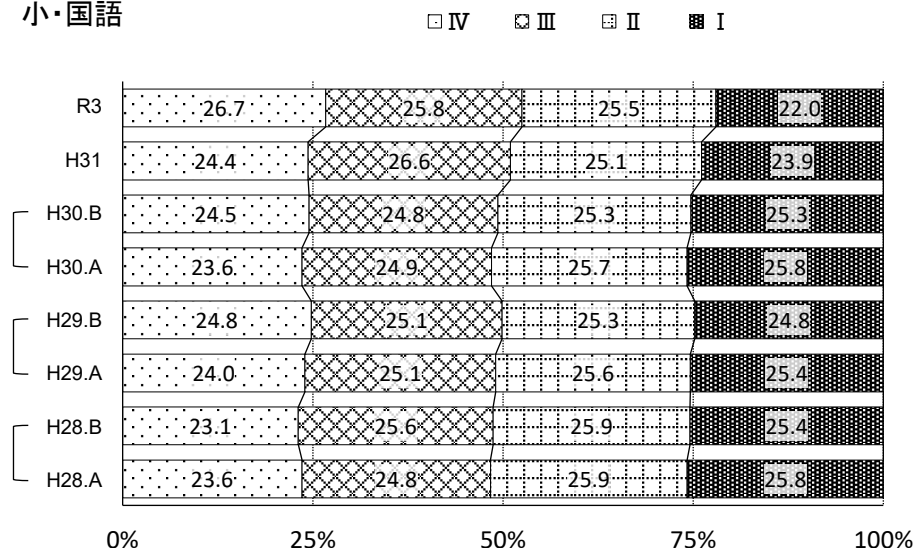
③ 小学校の経年変化（分布に着目した経年の状況）と分析

i) 分布に着目した経年の状況

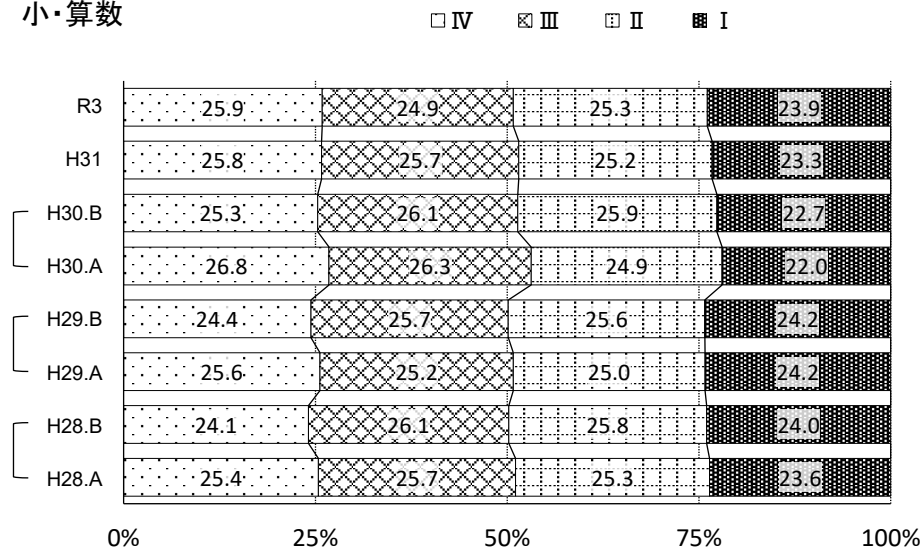
全国の受検者を正答数の多い順に並べ、上位から25%ずつ4分割(境界を含む階級の度数を按分することで、4等分となるよう補正)し、それぞれの区分をⅠ(上位25%以内)、Ⅱ(25%～50%)、Ⅲ(50%～75%)、Ⅳ(75%～100%)とした上で、各区分に入る長野県の児童の割合を求めた。

〔グラフⅡ-13〕 分布に着目した経年の状況

小・国語



小・算数



ii) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

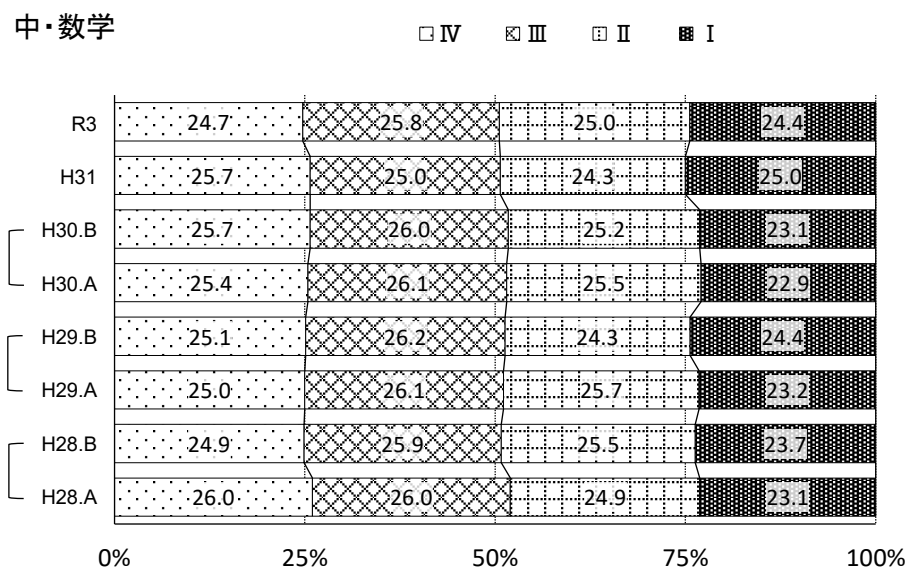
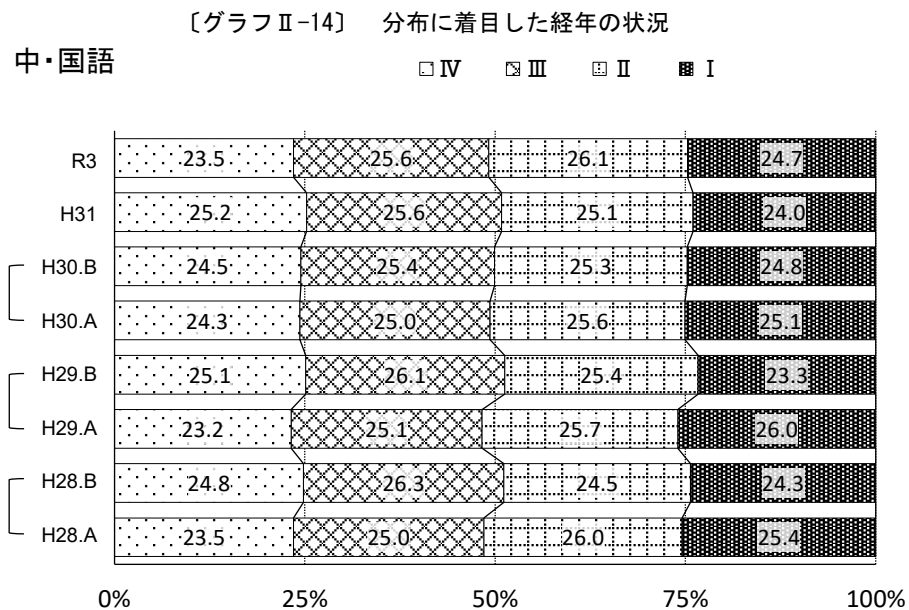
◇算数はⅠ層の割合が一昨年度よりも増加したことから、上位層の割合が一昨年度と比べて増加していることがわかる。(グラフⅡ-13)

◆国語はⅠ層の割合が一昨年度よりも減少し、Ⅳ層の割合が一昨年度よりも増加したことから、上位層の割合が一昨年度と比べて減少し、下位層の割合が一昨年度よりも増加していることがわかる。(グラフⅡ-13)

◆算数はⅣ層の割合が25%を上回っている状態が続いている。(グラフⅡ-13)

④ 中学校の経年変化（分布に着目した経年の状況）と分析

i) 分布に着目した経年の状況



ii) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

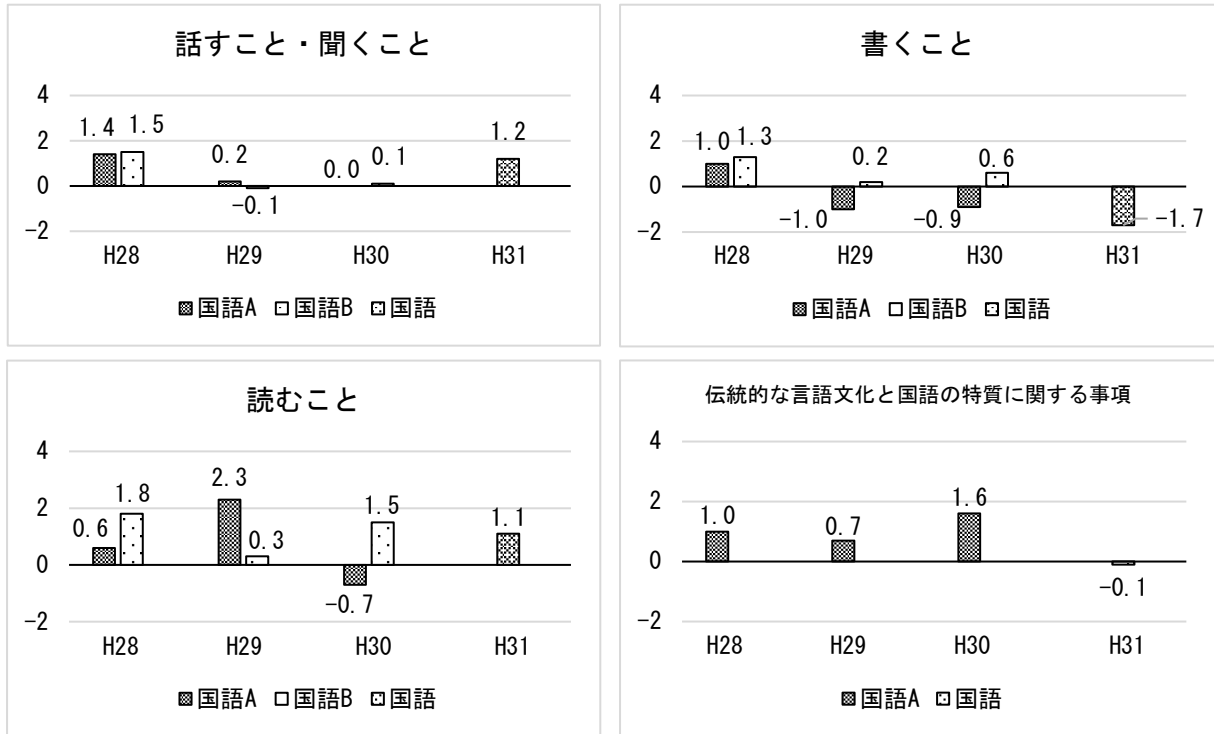
- ◇ 数学はIV層の割合が一昨年度よりも減少したことから、下位層の割合が一昨年度と比べて減少していることがわかる。(グラフⅡ-14)
- ◇ 国語はI層の割合が一昨年度よりも増加し、IV層が一昨年度よりも減少したことから、上位層の割合が一昨年度と比べて増加し、下位層の割合が一昨年度と比べて減少していることがわかる。(グラフⅡ-14)
- ◆ 数学はI層の割合が一昨年度よりも減少したことから、上位層の割合が一昨年度と比べて減少していることがわかる。(グラフⅡ-14)

⑤ 小学校国語の経年変化と分析

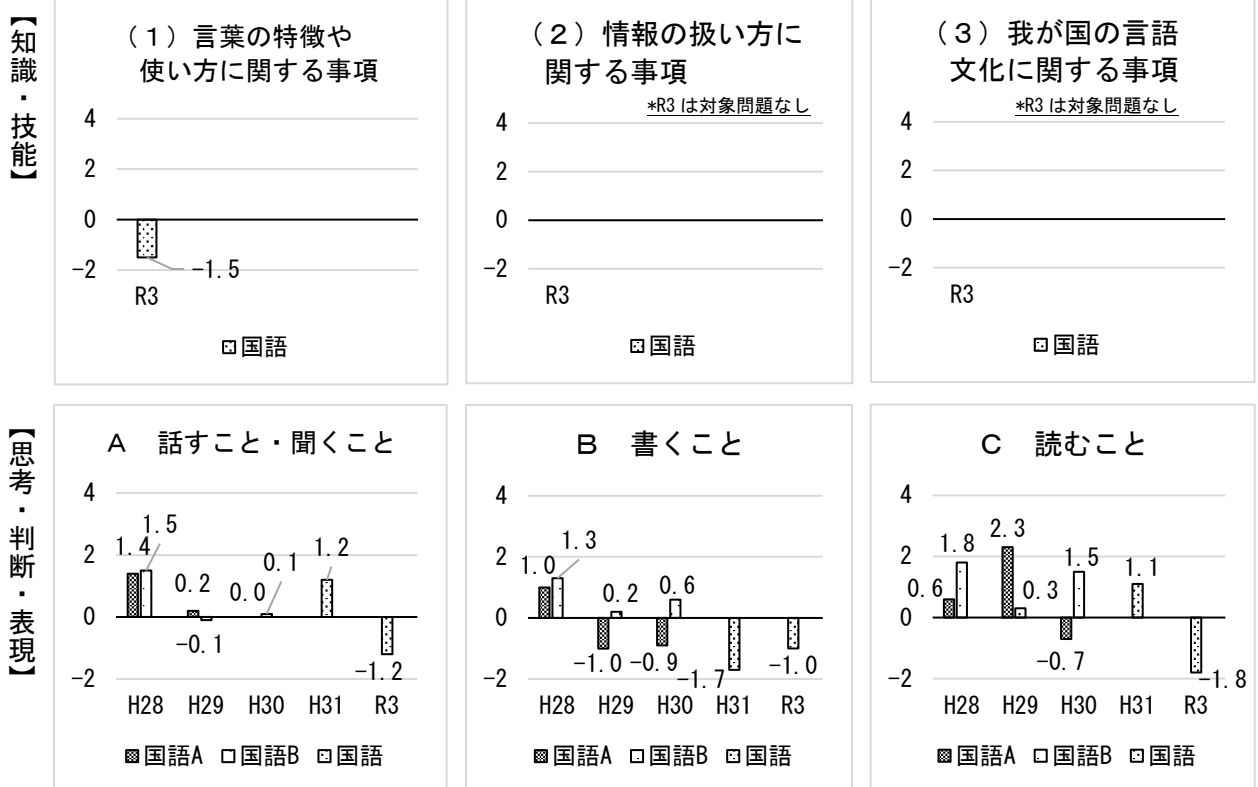
i) 内容（領域）、問題形式ごとの経年変化の状況

平成 28 年度から今年度までの内容（領域）と問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

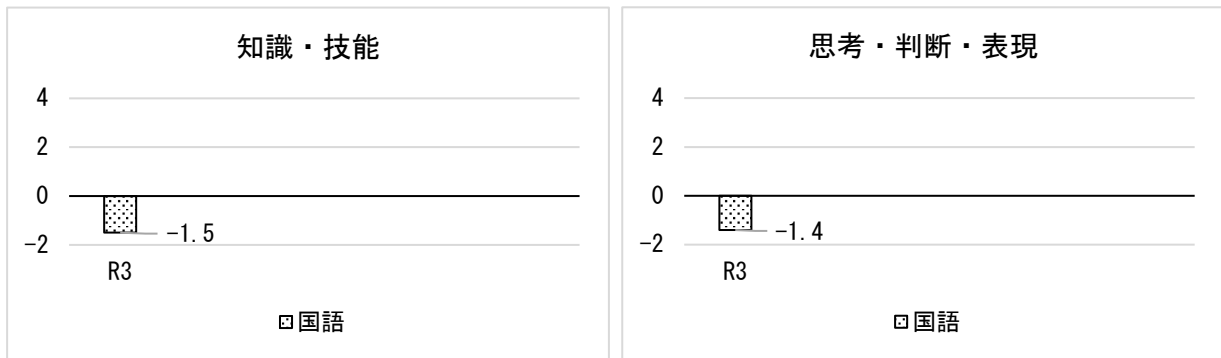
〔グラフⅡ-15〕 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）（H28～H31）



〔グラフⅡ-16〕 内容ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）



[グラフⅡ-17] 観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



ii) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

◆言葉の特徴や使い方に関する事項の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-16)

◆話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの平均正答率は、全国を下回っている。
(グラフⅡ-16)

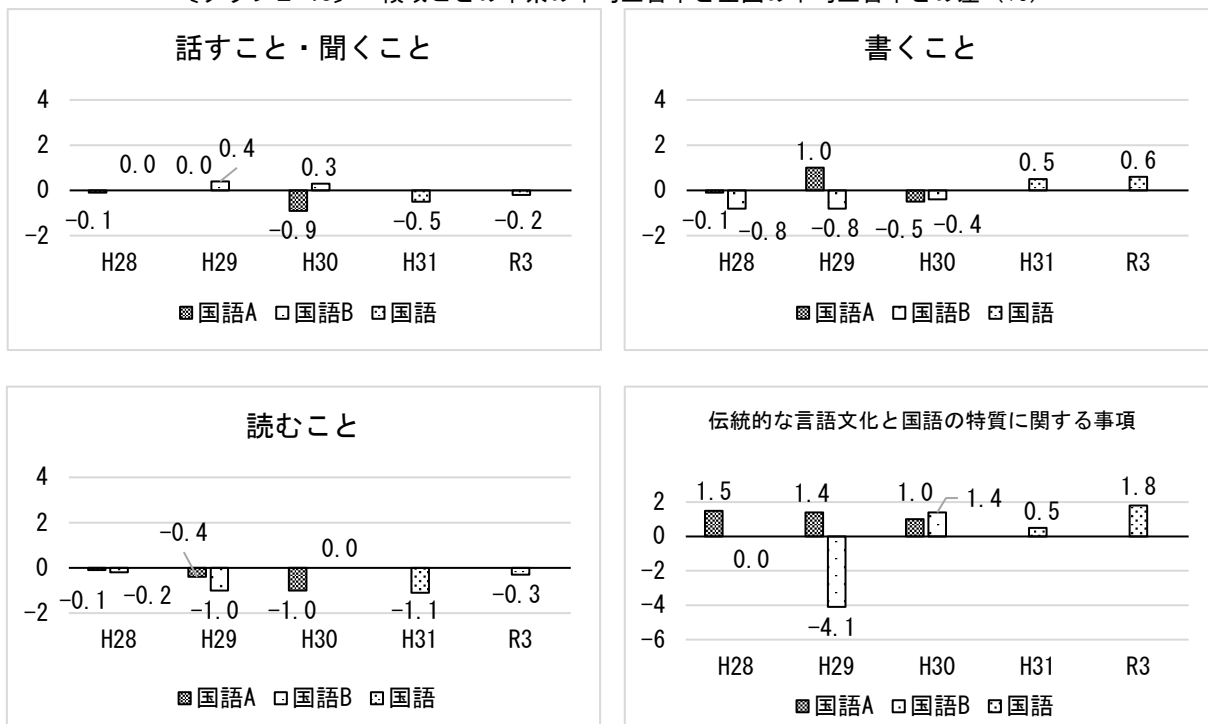
◆知識・技能、思考・判断・表現の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-17)

⑥ 中学校国語の経年変化と分析

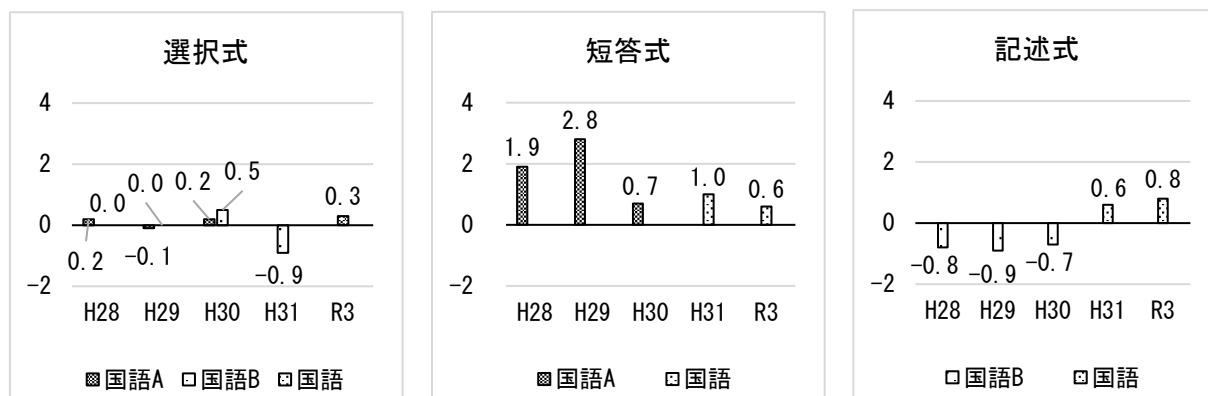
i) 領域、問題形式ごとの経年変化の状況

小学校国語と同様に、中学校国語についても領域と問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

〔グラフⅡ-18〕 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



〔グラフⅡ-19〕 問題形式ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



ii) 分析 ◇: 成果 ◆: 課題

◇書くこと，伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項，記述式の平均正答率は，昨年度に続き全国を上回っている。(グラフⅡ-18, 19)

◇短答式の平均正答率は，全国を上回る状況が続いている。(グラフⅡ-19)

◆話すこと・聞くこと，読むこと平均正答率は，全国を下回る状況が続いている。

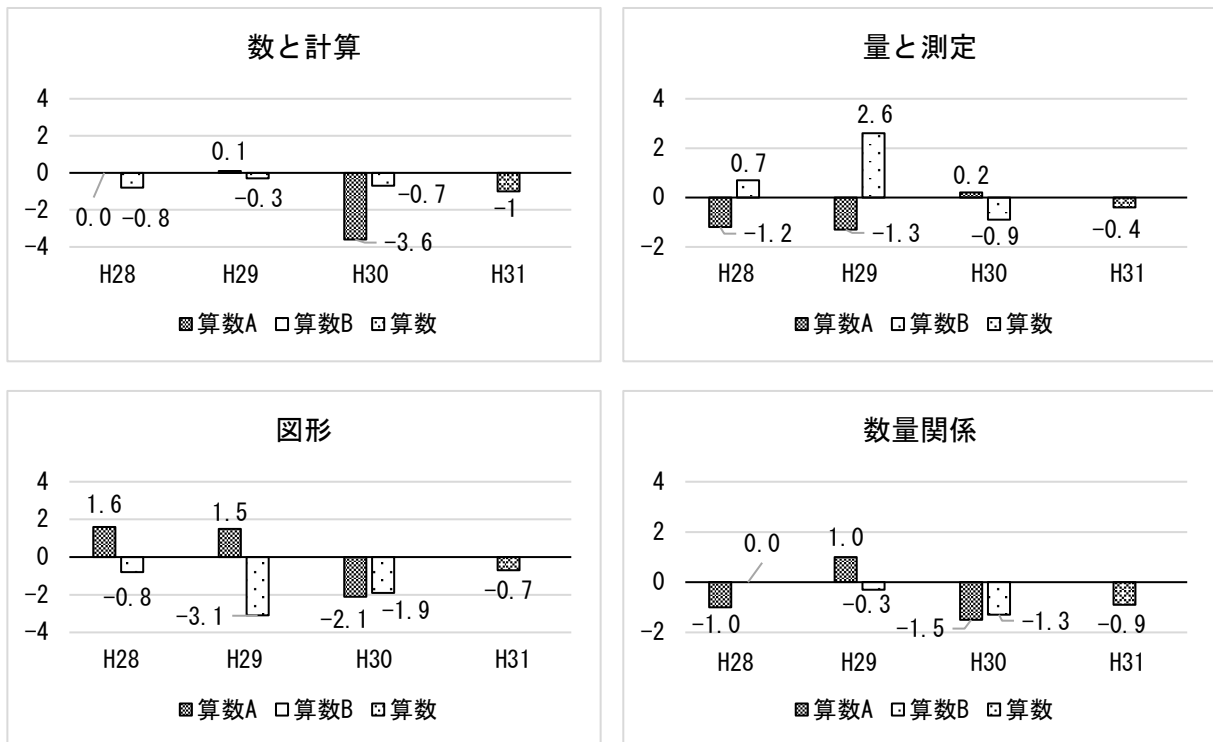
(グラフⅡ-18)

⑦ 小学校算数の経年変化と分析

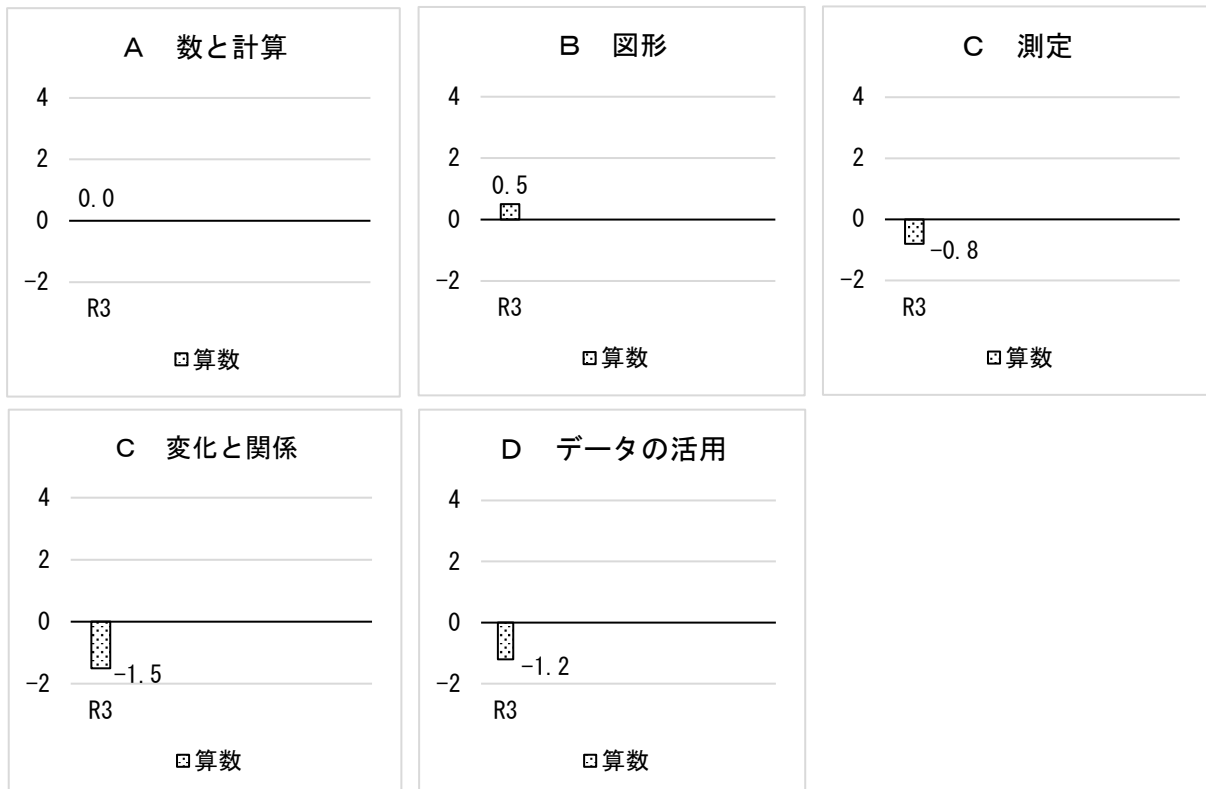
i) 領域、観点ごとの経年変化の状況

平成 28 年度から今年度までの領域と観点ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

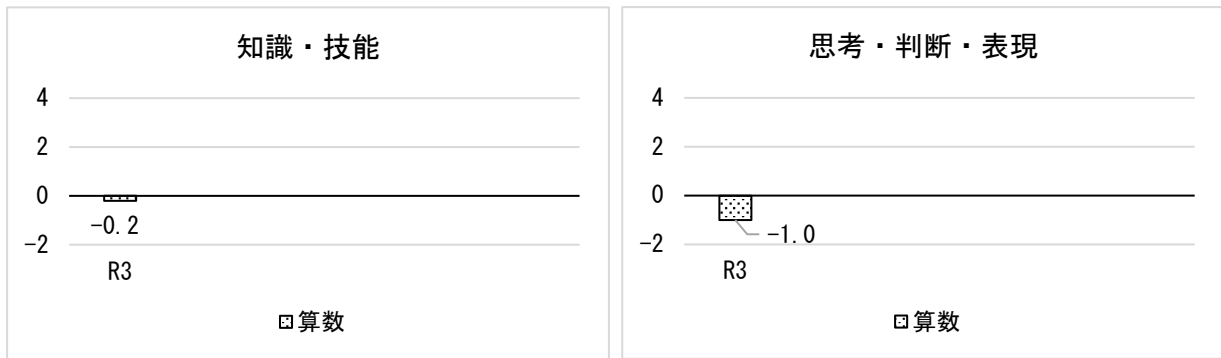
〔グラフⅡ-20〕 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%) (H28~H31)



〔グラフⅡ-21〕 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



〔グラフⅡ-22〕 観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇図形の平均正答率は全国を上回っている。(グラフⅡ-21)

◆測定、変化と関係、データの活用の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-21)

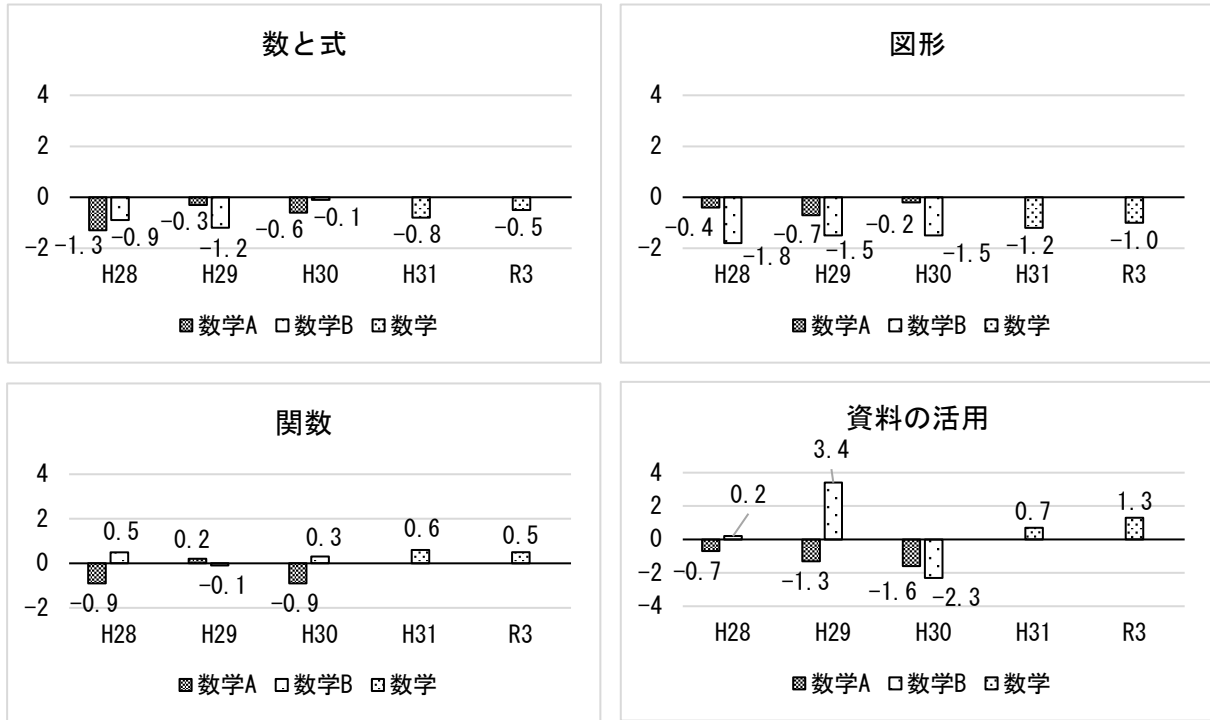
◆知識・技能、思考・判断・表現の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-22)

⑧ 中学校数学の経年変化と分析

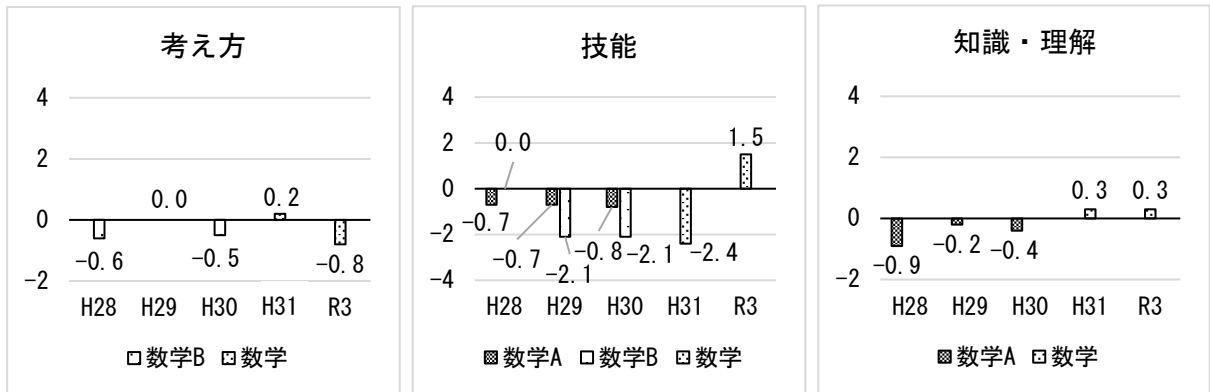
i) 領域、観点ごとの経年変化の状況

算数と同様に、数学についても領域と観点ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

〔グラフⅡ-23〕 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



〔グラフⅡ-24〕 観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



ii) 分析 ◇: 成果 ◆: 課題

◇関数, 資料の活用領域の平均正答率は, 昨年に続き全国を上回っている。(グラフⅡ-23)

◇技能, 知識・理解の平均正答率は, 全国を上回っている。(グラフⅡ-24)

◆数と式, 図形の平均正答率は, 全国を下回る状況が続いている。(グラフⅡ-23)

◆考え方の平均正答率は, 全国を下回った。(グラフⅡ-24)

2 質問紙調査の結果と分析

(1) 令和3年度 質問紙調査の結果と分析

児童生徒を対象とする質問紙調査と、学校（教師）を対象とする質問紙調査の項目を分類^(※1)し、それぞれを〔児童生徒〕、〔学校運営〕に整理し、領域ごとに全国を100としてスコア化^(※2)した。

〔児童生徒〕、〔学校運営〕の領域は次のとおりである。

〔児童〕 6領域, 〔生徒〕 7領域

- ・学習に対する関心・意欲・態度
 - ✓ 算数・数学への関心等
 - ✓ 英語への関心等(〔生徒〕のみ)
 - ✓ 地域・社会への関心等
- ・自己及び社会に対する認識
 - ✓ 規範意識
 - ✓ 自尊感情
- ・学習の基盤となる活動・習慣
 - ✓ 生活習慣
 - ✓ 学習習慣

〔小学校運営〕 6領域, 〔中学校運営〕 7領域

- ・教科指導
 - ✓ 個に応じた指導
 - ✓ 算数・数学科の指導法
 - ✓ 英語の指導法(〔中学校運営〕のみ)
- ・学力向上
 - ✓ 学力向上に向けた取組・指導方法
 - ✓ 家庭学習
- ・学校経営
 - ✓ 地域の人材・施設の活用
 - ✓ 教員研修・教職員の取組

※1：各領域に対応する質問項目は、文部科学省が結果チャートを作成する際に用いた分類に準ずる。

※2：該当する領域に含まれる個別の質問項目の回答結果の割合を基に基礎値を算出し、領域ごとの平均値を算出する。全国の平均値に対する長野県の平均値を各領域のスコアとして事務局でスコアを算出した。

① 小学校調査

i) 結果

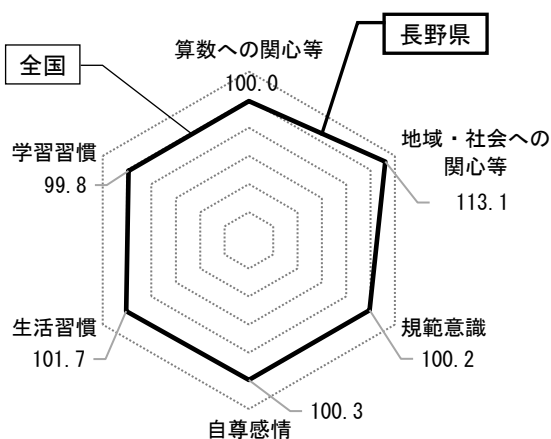
〔表Ⅱ-7〕 〔児童〕のスコア（小学校）

| 領域名 | | スコア |
|--------------------|----------------|-------|
| 学習に対する 関心・意欲・態度 | 算数への関心等 | 100.0 |
| | 地域・社会への関 心等 | 113.1 |
| 自己及び社会に 対する認識 | 規範意識 | 100.2 |
| | 自尊感情 | 100.3 |
| 学習の基盤となる 活動・習慣 | 生活習慣 | 101.7 |
| | 学習習慣 | 99.8 |

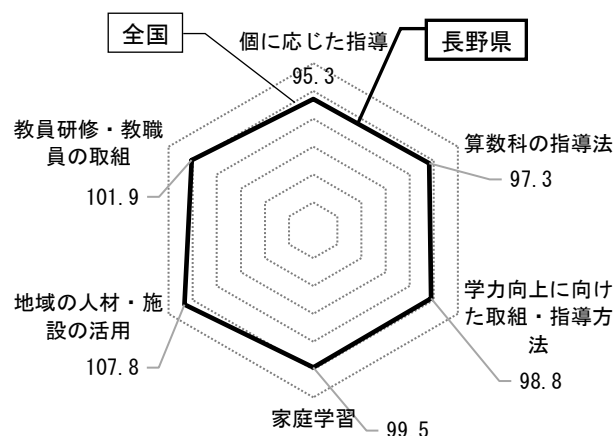
〔表Ⅱ-8〕 〔学校運営〕のスコア（小学校）

| 領域名 | | スコア |
|------|---------------------|-------|
| 教科指導 | 個に応じた指導 | 95.3 |
| | 算数科の指導法 | 97.3 |
| 学力向上 | 学力向上に向けた取組・ 指導方法 | 98.8 |
| | 家庭学習 | 99.5 |
| 学校経営 | 地域の人材・施設の活用 | 107.8 |
| | 教員研修・教職員の取組 | 101.9 |

〔グラフⅡ-25〕 〔児童〕のスコア（小学校）



〔グラフⅡ-26〕 〔学校運営〕のスコア（小学校）



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇〔児童〕のスコアは、いずれの領域においても概ね全国と同程度である。目立つものとして、地域・社会への関心が13ポイント以上、全国を上回っている。(表Ⅱ-7)

◇〔学校運営〕では、地域の人材・施設の活用、教員研修・教職員の取組が全国平均を上回っている。(表Ⅱ-8)

◆〔学校運営〕では、教科指導、学力向上の領域における項目が全国平均を下回っている。特に、個に応じた指導のスコアは全国平均を5ポイント近く下回っている。(表Ⅱ-8)

② 中学校調査

i) 結果

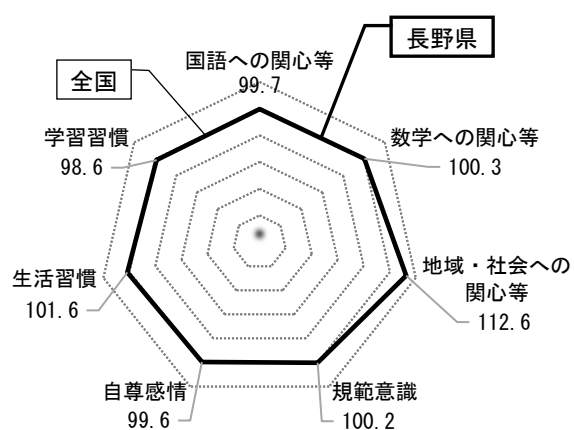
〔表Ⅱ-9〕 〔生徒〕のスコア（中学校）

| 領域名 | | スコア |
|--------------------|------------|-------|
| 学習に対する 関心・意欲・態度 | 国語への関心等 | 99.7 |
| | 数学への関心等 | 100.3 |
| | 地域・社会への関心等 | 112.6 |
| 自己及び社会に 対する認識 | 規範意識 | 100.2 |
| | 自尊感情 | 99.6 |
| 学習の基盤となる 活動・習慣 | 生活習慣 | 101.6 |
| | 学習習慣 | 98.6 |

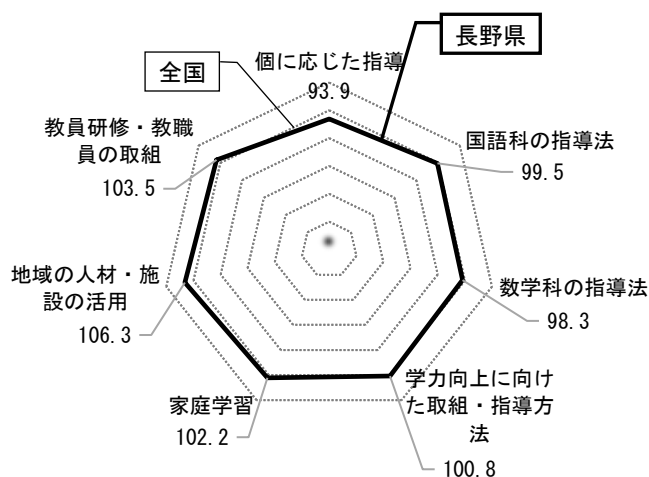
〔表Ⅱ-10〕 〔学校運営〕のスコア（中学校）

| 領域名 | | スコア |
|------|-----------------|-------|
| 教科指導 | 個に応じた指導 | 93.9 |
| | 国語科の指導法 | 99.5 |
| | 数学科の指導法 | 98.3 |
| 学力向上 | 学力向上に向けた取組・指導方法 | 100.8 |
| | 家庭学習 | 102.2 |
| 学校経営 | 地域の人材・施設の活用 | 106.3 |
| | 教員研修・教職員の取組 | 103.5 |

〔グラフⅡ-27〕 〔生徒〕のスコア（中学校）



〔グラフⅡ-28〕 〔学校運営〕のスコア（中学校）



ii) 分析 ◇：成果 ◆：課題

- ◇ 〔生徒〕のスコアは、国語への関心等、自尊感情、学習習慣を除いた項目では全国と同程度または全国を上回っている。（表Ⅱ-9）
- ◇ 〔学校運営〕の学力向上、学校経営で全国平均を上回っている。特に、地域人材・施設の活用は6ポイント上回っている。（表Ⅱ-10）
- ◆ 〔生徒〕では、学習習慣のスコアが、全国平均と比べて約2ポイント下回っている。（表Ⅱ-9）
- ◆ 〔学校運営〕では、教科指導のスコアが、全国平均を下回っている。（表Ⅱ-10）

(2) 過去5回（平成28年度～令和3年度）の調査結果の経年変化と分析

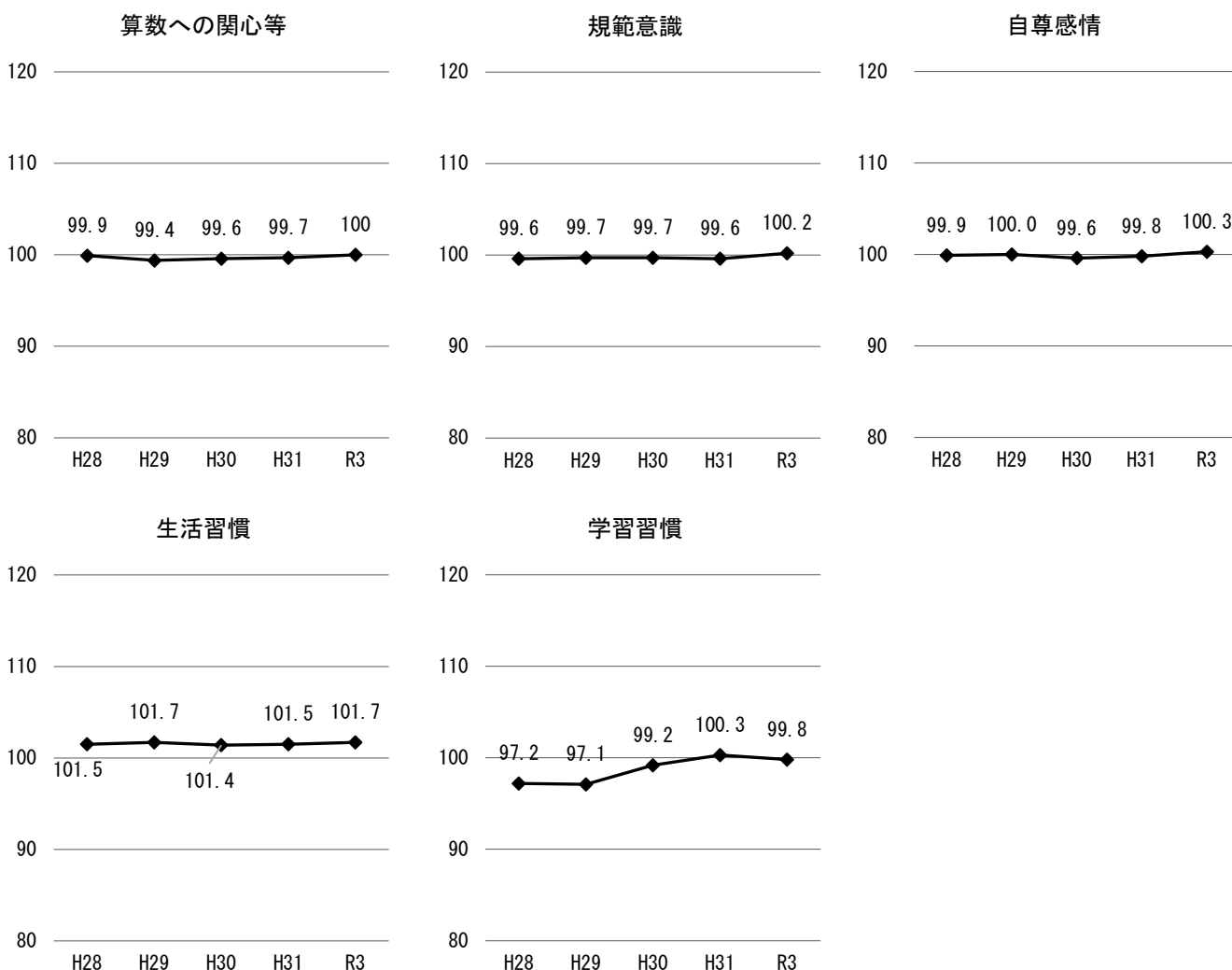
① 小学校調査

i) 経年変化

〔表Ⅱ-11〕 〔児童〕のスコアの経年変化

| 領域名 | | H28 | H29 | H30 | H31 | R3 |
|--------------------|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 学習に対する 関心・意欲・態度 | 国語への関心等 | 100.1 | 100.5 | 100.3 | 100.3 | 100.5 |
| | 算数への関心等 | 99.9 | 99.4 | 99.6 | 99.7 | 100.0 |
| | 総合的な学習の時間への関心等 | 99.2 | 96.3 | 95.5 | 95.5 | 96.1 |
| 自己及び社会に 対する認識 | 規範意識 | 99.6 | 99.7 | 99.7 | 99.6 | 100.2 |
| | 自尊感情 | 99.9 | 100.0 | 99.6 | 99.8 | 100.3 |
| 学習の基盤と なる活動・習慣 | 言語活動・読解力 | 99.3 | 99.4 | 98.0 | 98.0 | 100.1 |
| | 生活習慣 | 101.5 | 101.7 | 101.4 | 101.5 | 101.7 |
| | 学習習慣 | 97.2 | 97.1 | 99.2 | 100.3 | 99.8 |

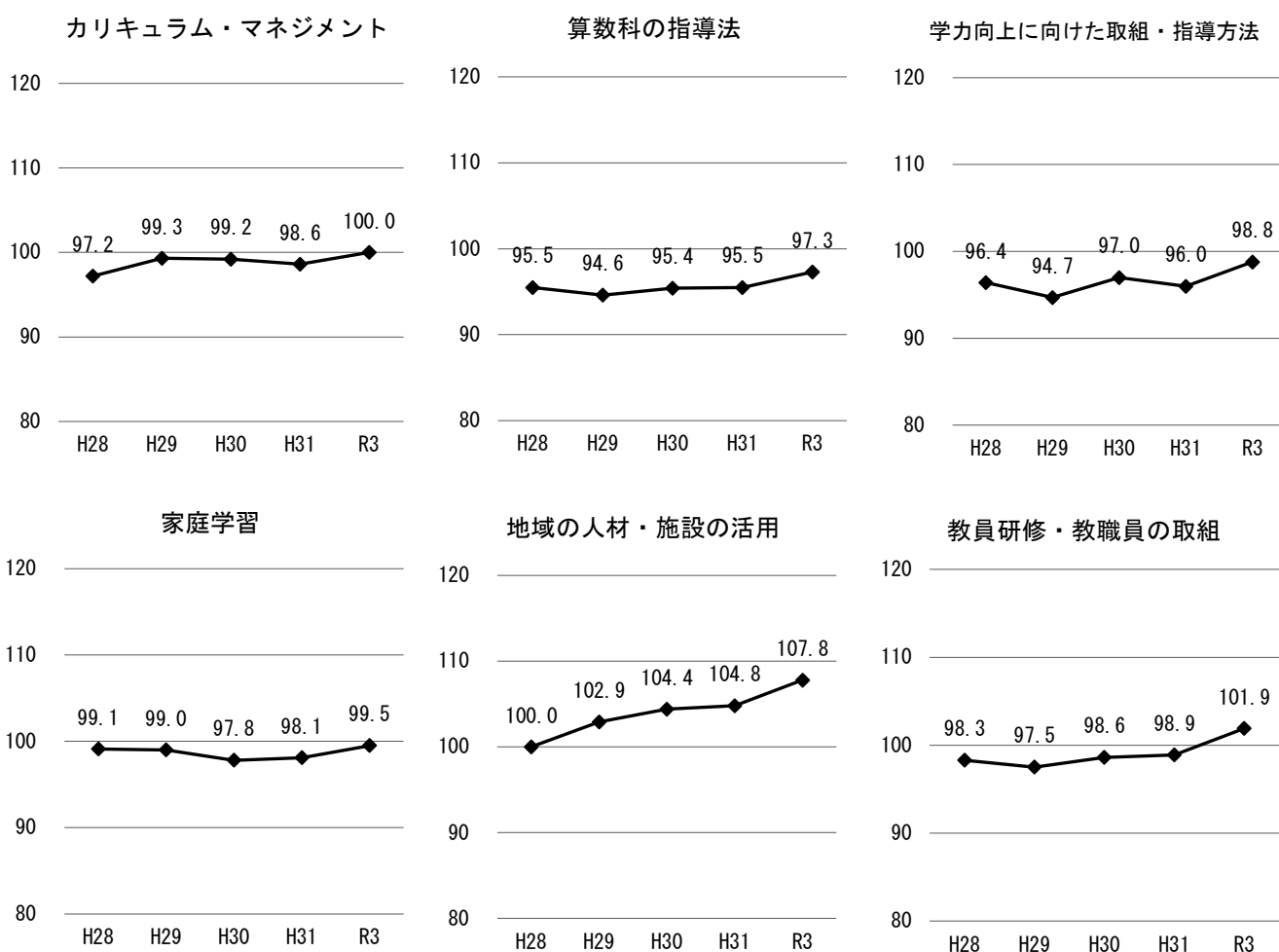
〔グラフⅡ-29〕 〔児童〕のスコアの経年変化



〔表Ⅱ-12〕 〔学校運営〕 のスコアの経年変化

| 領域名 | | H28 | H29 | H30 | H31 | R3 |
|------|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 教科指導 | カリキュラム・マネジメント | 97.2 | 99.3 | 99.2 | 98.6 | 100.0 |
| | 国語科の指導法 | 96.8 | 96.6 | | 95.5 | 98.0 |
| | 算数科の指導法 | 95.5 | 94.6 | 95.4 | 95.5 | 97.3 |
| 学力向上 | 児童の状況 | 99.1 | 99.2 | | 99.1 | |
| | 学力向上に向けた取組・指導方法 | 96.4 | 94.7 | 97.0 | 96.0 | 98.8 |
| | 家庭学習 | 99.1 | 99.0 | 97.8 | 98.1 | 99.5 |
| 学校経営 | 地域の人材・施設の活用 | 100.0 | 102.9 | 104.4 | 104.8 | 107.8 |
| | 教員研修・教職員の取組 | 98.3 | 97.5 | 98.6 | 98.9 | 101.9 |

〔グラフⅡ-30〕 〔学校運営〕 のスコアの経年変化



ii) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

◆ [児童] 学習習慣はスコアが下がり、全国平均を少し下回っている。総合的な学習の時間への関心等は5年間、全国平均を下回っている。(表Ⅱ-11)

◇ [学校運営] 地域の人材・施設の活用では4年間スコアの上昇が続いている。教育研修・教職員の取組も3年間スコアの上昇が続いている。(表Ⅱ-12)

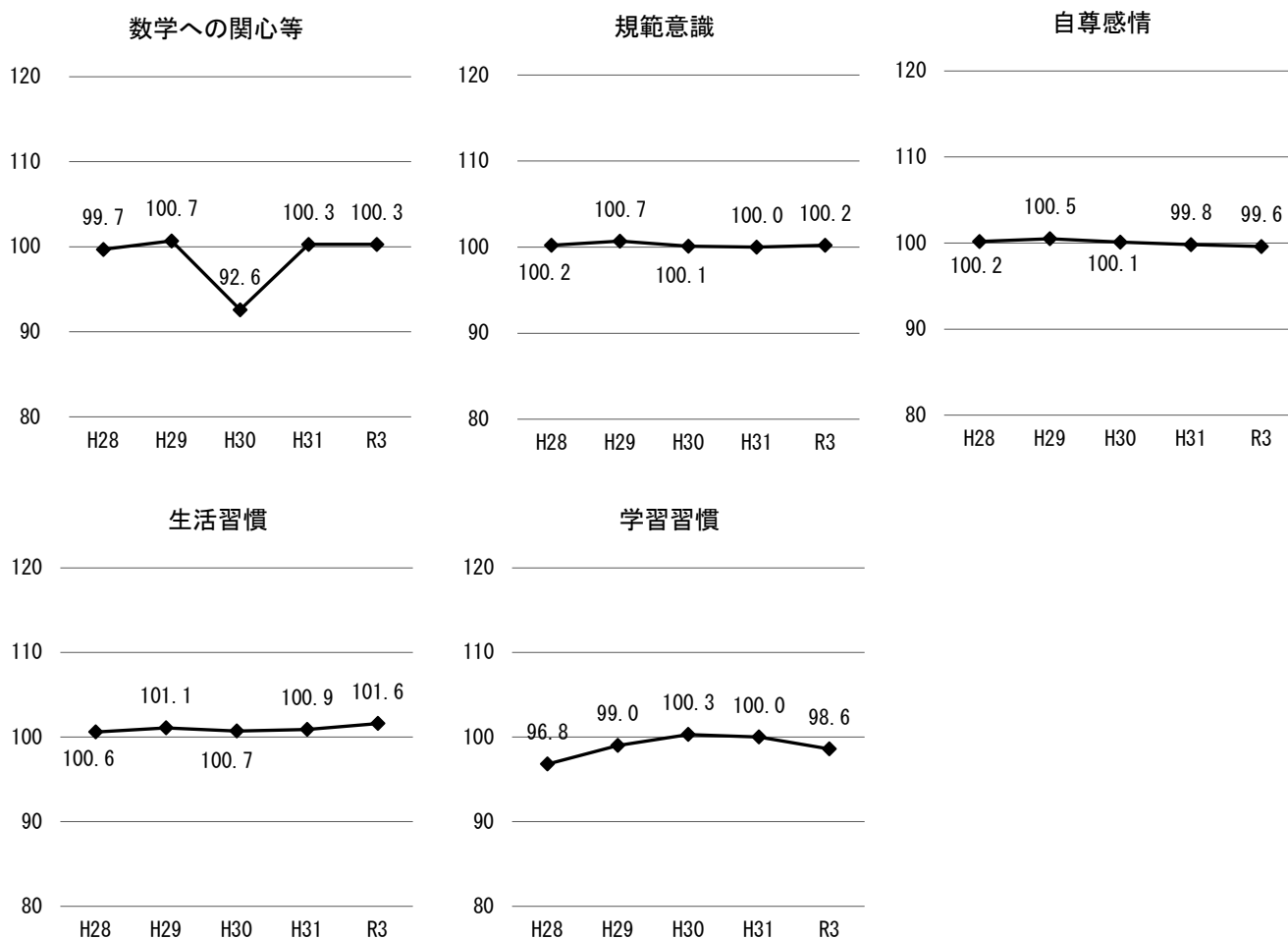
② 中学校調査

i) 経年変化

〔表Ⅱ-13〕 〔生徒〕のスコアの経年変化

| 領域名 | | H28 | H29 | H30 | H31 | R3 |
|------------------------|--------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 学習に対する 関心・意欲 ・態度 | 国語への関心等 | 99.7 | 100.9 | | 94.6 | 99.7 |
| | 数学への関心等 | 99.7 | 100.7 | 92.6 | 100.3 | 100.3 |
| | 総合的な学習の 時間への関心等 | 96.4 | 96.1 | | 95.6 | 98.0 |
| 自己及び社会に対 する認識 | 規範意識 | 100.2 | 100.7 | 100.1 | 100.0 | 100.2 |
| | 自尊感情 | 100.2 | 100.5 | 100.1 | 99.8 | 99.6 |
| 学習の基盤となる 活動 ・習慣 | 言語活動・読解力 | 99.8 | 99.2 | | 99.9 | 99.8 |
| | 生活習慣 | 100.6 | 101.1 | 100.7 | 100.9 | 101.6 |
| | 学習習慣 | 96.8 | 99.0 | 100.3 | 100.0 | 98.6 |

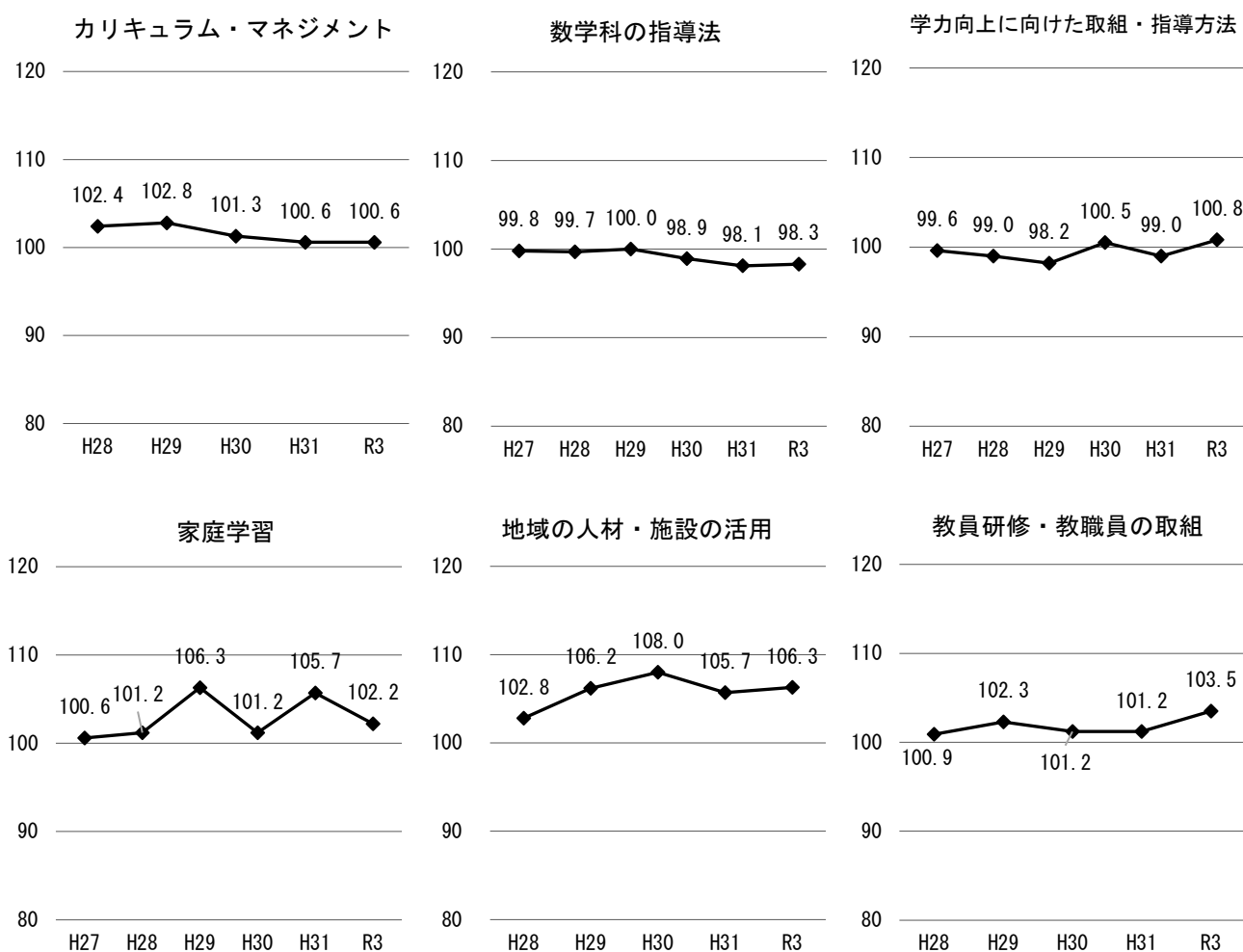
〔グラフⅡ-31〕 〔生徒〕のスコアの経年変化



〔表Ⅱ-14〕 〔学校運営〕 のスコアの経年変化

| 領域名 | | H28 | H29 | H30 | H31 | R3 |
|----------|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 教科 指導 | カリキュラム・マネジメント | 102.4 | 102.8 | 101.3 | 100.6 | 100.6 |
| | 国語科の指導法 | 99.5 | 100.4 | | 98.0 | 99.5 |
| | 数学科の指導法 | 99.7 | 100.0 | 98.9 | 98.1 | 98.3 |
| 学力 向上 | 生徒の状況 | 101.4 | 101.3 | | 101.7 | |
| | 学力向上に向けた取組・指導方法 | 99.0 | 98.2 | 100.5 | 99.0 | 100.8 |
| | 家庭学習 | 101.2 | 106.3 | 101.2 | 105.7 | 102.2 |
| 学校 経営 | 地域の人材・施設の活用 | 102.8 | 106.2 | 108.0 | 105.7 | 106.3 |
| | 教員研修・教職員の取組 | 100.9 | 102.3 | 101.2 | 101.2 | 103.5 |

〔グラフⅡ-32〕 〔学校運営〕 のスコアの経年変化



ii) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

- ◇ [生徒] 学習習慣のスコア以外は、全国と同程度または全国を上回っている。(グラフⅡ-31)
- ◇ [学校運営] 地域の人材・施設の活用及び教員研修・教職員の取組のスコアは、上昇傾向が見られる。(グラフⅡ-32)
- ◆ [生徒] 学習習慣のスコアは、下降傾向が見られる。(表Ⅱ-31)
- ◆ [学校運営] 家庭学習のスコアは、降下降傾向が見られる。(グラフⅡ-32)